

地域福祉に関するアンケート調査結果（町会長）

1 対象者

小樽市総連合町会 会長 149 名

2 調査方法

調査票は「町会長と市との連絡会議」を通じて配布、回収は郵送方式

3 調査期間

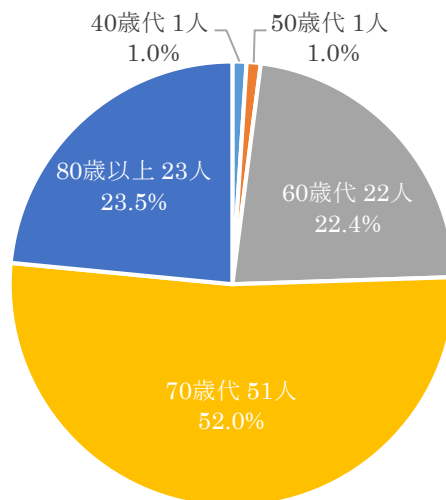
令和2年6月19日から令和2年7月10日まで

4 回収件数及び回収率

98 件（65.8%）

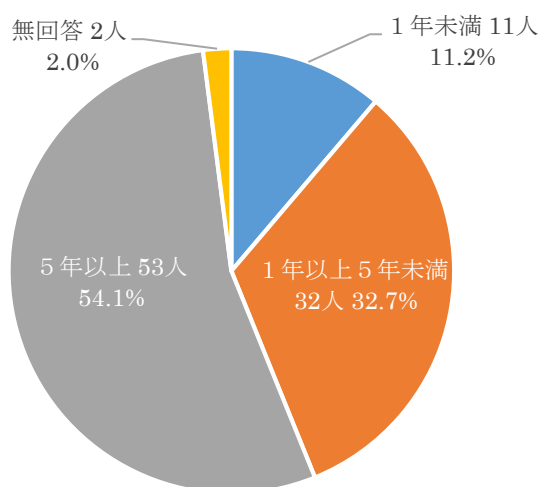
問1 年齢 【単一回答】

年齢については、「70歳代」が52.0%と最も多く、「80歳以上」が23.5%で次いでいる。



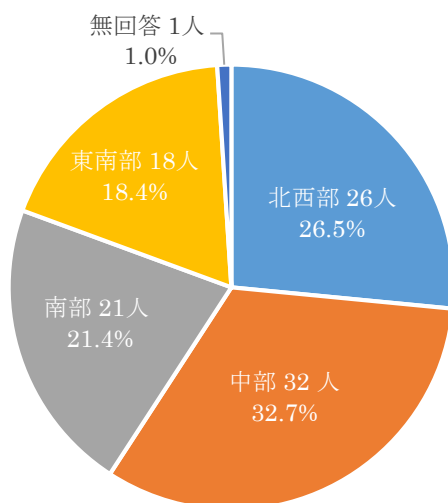
問2 在職期間（会長職） 【単一回答】

会長になって「5年以上」が38.2%で最も多く、次いで「1年以上5年未満」が32.7%となっている。



問3 居住地区 【単一回答】

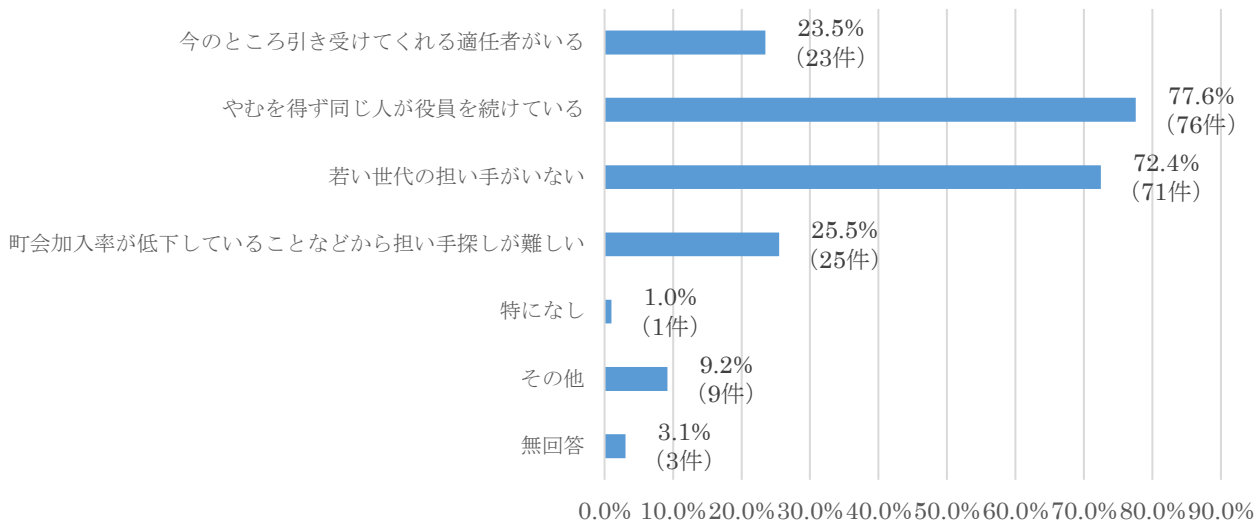
居住地区については、「中部」が32.7%と最も多くなっている。



北西部	忍路、塩谷、桃内、蘭島、赤岩、祝津、高島、オタモイ、幸、旭町、長橋
中部	手宮、錦町、豊川町、石山町、末広町、梅ヶ枝町、清水町、港町、堺町、東雲町、相生町、山田町、色内、花園、稲穂、富岡、緑
南部	若松、奥沢、天神、真栄、住吉町、信香町、新富町、築港、勝納町、若竹町、潮見台、有幌町、住ノ江、入船、松ヶ枝、最上、天狗山
東南部	桜、船浜町、望洋台朝里、朝里川温泉、新光、新光町、桂岡町、銭函、張碓町、春香町、星野町、見晴町

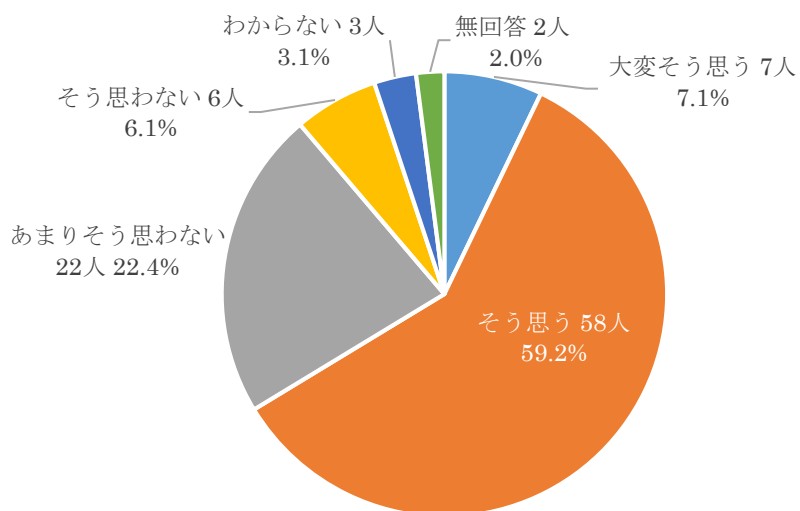
問4 民生児童委員の担い手について 【複数回答】（当てはまるものすべて）

「やむを得ず同じ人が役員を続けている」が77.6%で最も多く、担い手の確保に苦慮されている様子が伺える。「その他」では、「町内の若い人を勧誘してくれる役員がいるので活性化している」との意見があった。



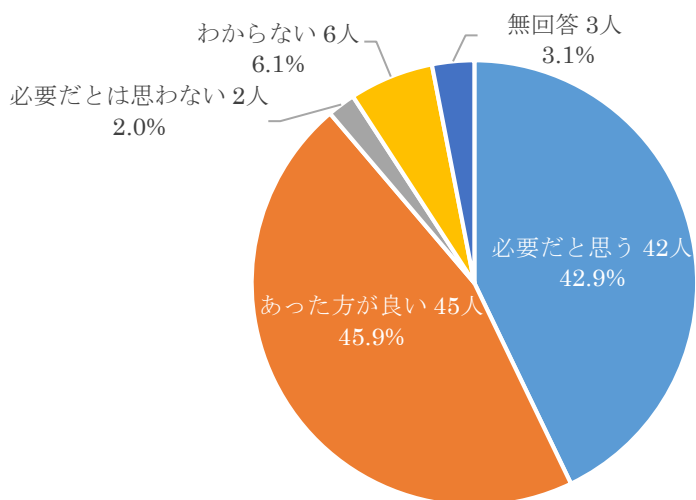
問5 居住地区の住民はお互いに助け合いができていますか？ 【単一回答】

「そう思う」が59.2%で最も多いが、「あまりそう思わない」が22.4%で次いでいる。



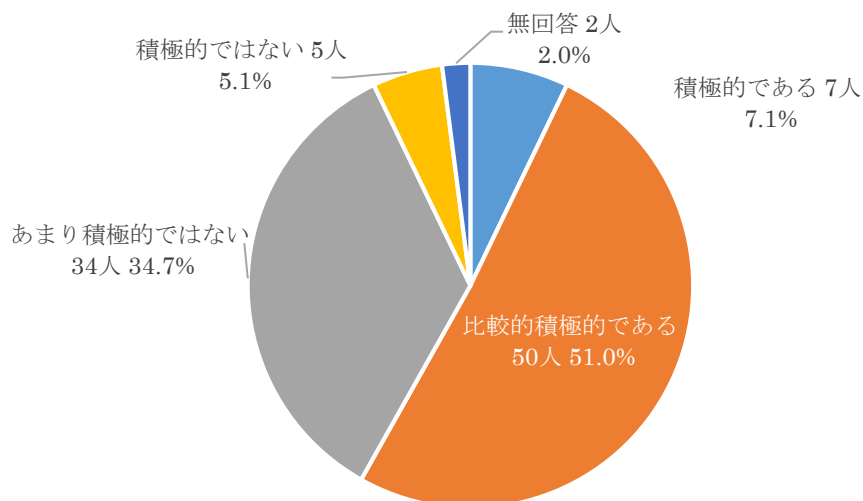
問6 地域住民の支え合いは必要？ 【単一回答】

「あった方が良い」が45.9%で最も多く、「必要だと思う」と併せると支え合いに肯定的な意見は全体の9割弱となる。



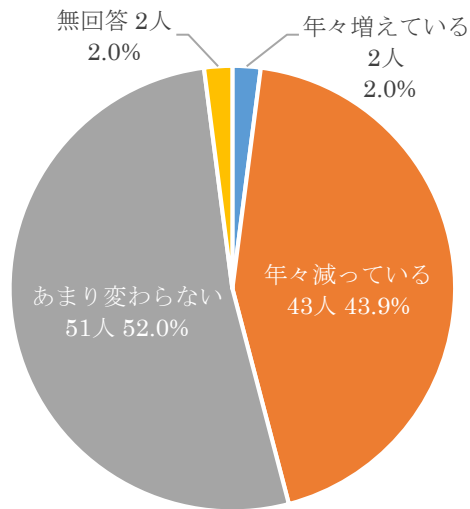
問7 町内会活動等に対し、住民の協力は積極的か？ 【単一回答】

「比較的積極的である」が51.0%で最も多いが、「あまり積極的ではない」が34.7%で次いでいる。



問8 町内会活動等への住民参加の状況 【単一回答】

「あまり変わらない」52.0%が最も多く、次いで「年々減っている」が43.9%となっている。

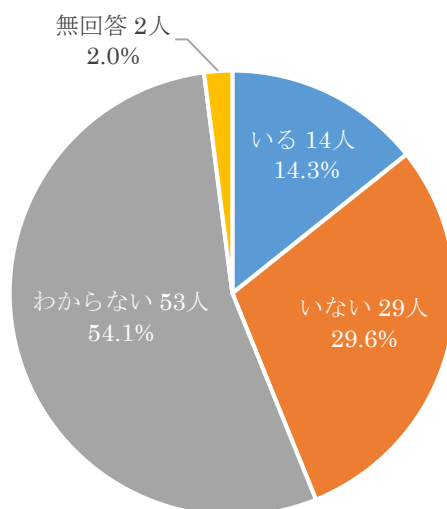


問9 ひきこもりの事例を知っているか？ 【単一回答】

質問にあたって「ひきこもり」の定義を下記のとおり示した。

※「ひきこもり」(厚生労働省の定義)…仕事や学校に行かず、かつ家族以外の人との交流をほとんどせずに、6か月以上続けて自宅にひきこもっている状態

「わからない」が54.1%で最も多かった。さらに調査により把握できた対象者は17人となっている。

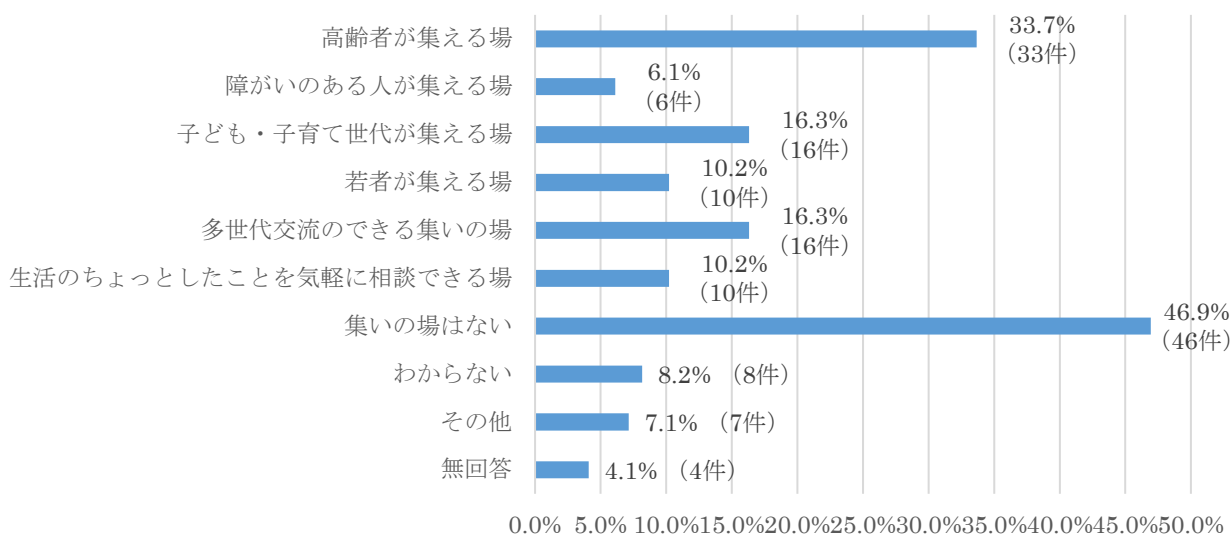


「いる」の内訳

把握人数	回答者数
1人	5
2人	3
3人	2
無回答	4

問 10 居場所の有無や概要 【複数回答】（当てはまるものすべて）

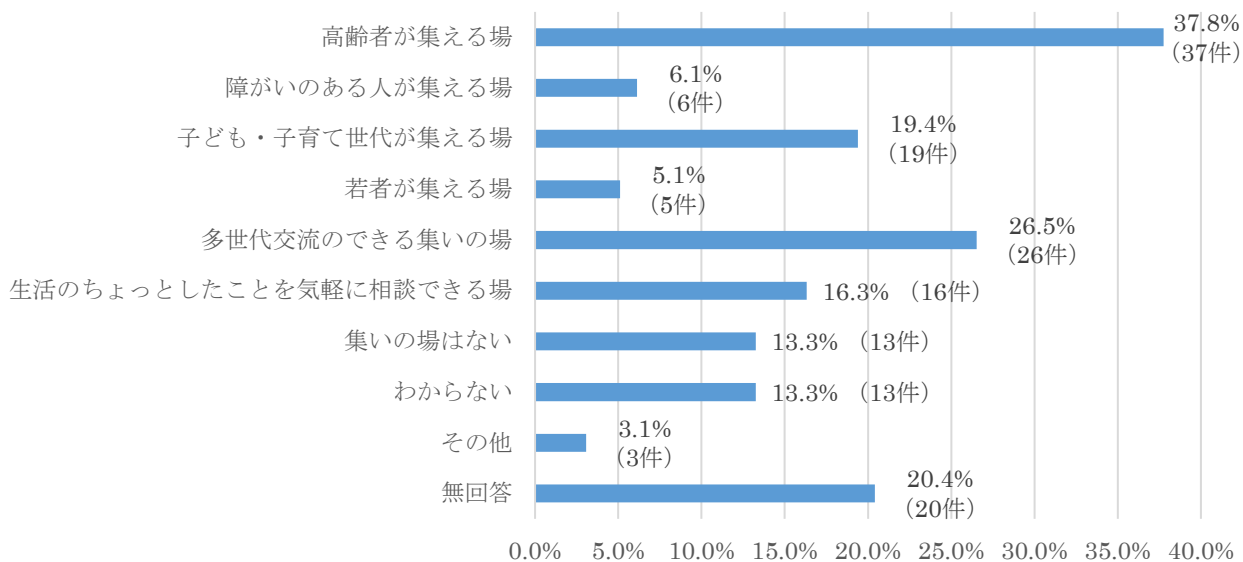
「集いの場がない」が46.9%と最も多く、次いで「高齢者が集える場」が33.7%となっている。居場所の概要は、町内会館を活用しているとの回答が多かった。



問 11 どのような居場所が必要か？ 【複数回答】（当てはまるものすべて）

必要な居場所を設けるために重要なこと？ 【自由記載】

必要な居場所としては、「高齢者が集える場」が37.8%と最も多い結果となった。



【必要な居場所を設けるために重要なこと】

- ▶町内会館を利用して、居場所づくりをする事となれば、会場が狭いことがネックです。高齢者が非常に多いので、坂を下りて集まれるかも問題です。
- ▶料金が低額であること。管理人がいること。交通の利便性が良いこと。
- ▶「居場所」の本格的施設建設のための資金確保
- ▶町内会館がないので欲しいと思う
- ▶行政の支援
- ▶町内レクリエーション等で参加を募り、参加者と多く語り合い交流が出来るよう努力をしているが、そのような行事に参加する人自体が少ない。
- ▶ハードの施設より、世話をする人材が必要だと思う。
- ▶町会中心部に広場（公園）
- ▶現状では、特に不自由さは感じていないが、気兼ねなく、いつでも使用できる場所があれば町会として、居場所を設けることも可能である。
- ▶高齢者が集える場はあるが指導者がいない
- ▶皆が思いやりをもって生活が出来るため、色々な世代の人が集まれるのが良いと思う
- ▶高齢者による会館利用管理
- ▶維持管理に費用がかからないこと。季節に関係なく徒歩で簡単に集れること。施錠等防犯管理がしっかりしていること。できるならば冷暖房設備完備していること。使用資材等を保管できること。
- ▶現在の会館でよいが、障害のある人が集える場としては不十分。少々困難ではあるが玄関、トイレ等改修する必要がある（バリアフリー化を進める）改修の助成も大切。また、受け入れ体勢も今後、拡充する必要がある。障がい者、高齢者に優しい参加可能な事業を組み、お世話する人的配置を工夫していきたい。
- ▶低料金で使用出来ること。まとめ役や中心になってくれる人がいること。
- ▶人とのつながりが稀薄になっている。気軽に利用でき、集まれる場があれば若い方も集える。オープンなスペース、公園等が小樽市は極端に少ない。
- ▶気軽に訪れる雰囲気が必要で、利用するために申請だとか、会員になるとかの手数がかからない方が良い。居場所の施設はある程度の拡充した地域。特に、子ども・子育ての場合は広い区分の方が様々な情報が得られるのではないか？また、相談員等の拡充も望まれる。
- ▶若者が集える場所の具体化
- ▶高齢化が進む今日、上記設問については解答する項目がありません。町内会の維持そのものが困難になっています。
- ▶バリアフリーを備えてるホールが必要
- ▶高齢者が集える場所の条件としては、①地域の中心となる場所 ②1階（階段を使わず）で、座って休める場、椅子が使用できる場、TV等の視聴可能などが考えられる。当地区には、子供が集える「児童センター」はあっても、老人や青年の集える場所がない。
- ▶サロン運営者として、利用者からの参加料をいただくが、コロナのため開催できず、光熱、水道料金の出費が困難となってきている。運営費の確保。

- ▶若者と子どもが少ないので、交流しようと思っけていてもなかなか出来ない。特に若者は、自己中心型で交わりがない
- ▶幼児や小学生が多いので、公園などの遊び場が大事だ。現状にあわせて、それに対応した「居場所」を考えたい。やがて、無駄になるかも知れないが、そのタイミングが重要でなからうか。過ぎてしまったから、あの時はもどらないと考えます。難しい問題ですが、老人ばかりが多くなる中で、子供に注視したいものです。
- ▶定期的な開催可能な「健康教室」「おしゃべりサロン」等、「親・子ふれあいサロン」「親子健康教室」等、町会行事を通して行える「町内清掃」「歩こう会」「盆踊り」等。町内会館はあり、上記の行事もいくつか実行済み。もっと積極的な取り組みと、加えて参加者（町会員）の参加費欲の向上を望むところです。
- ▶場所の確保。維持費の問題。管理人の問題。
- ▶小さなお子さんから、父母やお年寄りの方々が気軽に集まって、好きな時間に来て、いつでも帰る→規制を設けない。最小限のルールにとどめる。継続の為には参加料をもらう（例えば100円でも）
- ▶殆どの住民が家庭菜園等をやっているたか、あまり居場所の必要性についての相談はないが、独居老人が増加している現状から、連絡体制強化が求められている。
- ▶無料の常設場所があればいつも思っています。
- ▶①高齢者の都合に合わせて、居場所（会話）が利用できること②そのためには、専属の担当者と会館管理人が必要である。③会館管理の財源がない。
- ▶地区の中心に、子どもたちが遊べる公園があること
- ▶利用しやすい位置に駐車場や車だまりがある場所の確保。管理、運営にあたるボランティアの世話人の確保と運営費の捻出。
- ▶町会役員の高齢化とともに事業負担が増える。役員若返りで、子ども達の喜ぶ企画が必要。多世代交流の集いの場があれば、ともに協力のできる地域福祉へと繋がるように思う。
- ▶町内会館のある町会では、出来るだけ開放して貸与する。会館の有効利用。
- ▶若い家庭は、ほとんど共働きが多く、子ども達も習いごと等で忙しい。色々催しものを企画しても、参加者が少ない現状です。年々高齢者が増えてきているので、買い物するためにも、バス又は歩くことになるが、年々バスの便が少なくなっている。特に夕方からの便が減って不便になっている。また、冬期間は歩道の除雪を、もう少し広くしてほしい。
- ▶町内の意識調査をしなければ把握できない。今後の検討課題と思う。
- ▶高齢者が多いので、どこに集会所を作っても利用には課題が残る。

問 12 小樽市の施策について（ふれあいパス） 【自由記載】

- ◆高齢者には利用してる人が多く、高齢者の生活の中に浸透している制度だと思います。したがってこの制度については、多くの高齢者が存続を望んでいると思います。そのことを勘案すると、利用者の事情に合わせて現行のまま使用量制限制度と利用者負担の増加の2方式を用意し、利用者に選別させる方法を取ったらどうでしょう。
 - ◆1乗車150円ぐらいまでを考えてみては。人が多く動けるように、1人当たりの使用制限はしないほうが良いと思う。
 - ◆「ふれあいパス」JR無料券についての提案。1.まず、銭函→小樽までは年1~2回が利用されているのが現状ではないかと思います。2.皆さん方の声としては、毎年もらっても消化できなく残っています。3.銭函⇄小樽内JRで20分程度。交通を考えると75歳以上の方はマイカーを放す方が増えています。◎現在の半分程度で良いと考えます。
 - ◆75歳以上の方として、1年間30~50枚にしてはどうでしょうか。
 - ◆バス路線の事業 収入-収支=黒字?赤字? 赤字となる見込みであれば市民に説明することです。
 - ◆バスと電車と同じにしてほしい
 - ◆住居の場所によって適用すべき。市の中心部は必要ないと思います。
 - ◆マイカー自粛の為に、ふれあいパス絶対継続が絶対必要。利用者負担増加になっても、使用量は制限なしにすべきと思う。
 - ◆本当にいいことだと思います。続けてほしいです。
 - ◆当地区は自家用車の利用が多いのですが、本当に必要とされる方のみに「ふれあいパス」を利用していただく内容にした方が良いと思います。70歳以上なら、皆がという事でなく、自家用車のない世帯などに限定するべきだと思います。
 - ◆バス料金については、個人的に市の負担は今後は無理ではないかとか考えています。それよりも市内にある施設の利用の割引等で良いのではないのでしょうか。今後は、生活保護世帯も増える中、どれも市が賄う事は出来ず、バス会社も利益がなければ運営できません。
 - ◆利用するバス路線がない。利用者が限定されている感がある(健康問題)。乗り継ぎがわずらわしい。事業費の抑制。以上のことから効果は薄い。従って、この事業は廃止する方向で検討したら良い。
 - ◆高齢者が外出するのにとても良いことなので、ぜひ継続してやって欲しい
 - ◆利用者負担を増加し、継続していただきたい。
 - ◆続けるのであれば、利用者負担の増加やむなし。
- 現在の「ふれあいパス」は高齢者の皆さんには定着しているために、事業の継続は必要なことと思われる。一方、市の「バス事業」には財政的な問題もあると思われるので、利用者がある程度の負担増はやむを得ないと思われる。
- ◆「ふれあいパス事業」は高齢者にとって、今後も必要な事業と思われます。事業継続のため、事業費の抑制は財政状況から必要なことと思われませんが、交通事業者の協力体制が必要と思われます。」
 - ◆財政的負担が市としても大きいと思うが、何とか続けてもらいたい。

- ◆ICカードにしては？一定金額以上は個人負担にする。JRも、バスも同一のICカード。錢函は、JRとバス両方利用者が多く、現状は片方のみです。
- ◆ふれあいパスの継続よりも、バス路線の維持、便数の確保が優先するかと思います。
- ◆私は使った事はありませんが、全市で対象者の何パーセントが使用しているのかよくわかりませんが、使用量を制限する必要があるかもしれません。
- ◆活動の場を求める者にとって、一番重要な事業です。他都市のように自転車の活用ができないのでバスしかありません。使用量の制限は、元気であろうとしている70歳以上の活動に大変な影響があります。バス代がアップする以上、利用者負担の増加はやむを得ません。
- ◆高齢者に限らず、外出したい人を支援することは良いことだと思う。
- ◆高齢者が家に閉じこもることを防ぐことや、健康上よりカバーするため、少しでも金銭的負担を少なくすることが望ましいので、「ふれあいパス」は今後も必要と考える。
- ◆運転免許証の返納を進めている中、気楽にバスを利用できる環境を維持してほしい。
- ◆事業の継続をお願いするためにはある程度の負担増も必要（20円前後の負担増）
- ◆利用者負担の増加は、当初より見込まれ予想されたものである。今後については、行政側で考えて下さい。
- ◆ふれあいパスがあることで、高齢者の外出が多くなり元気になっていると思う。病院に行く人などは必要だと思う。使用量の制限も良いと思います。なくすのはやめてほしい。
- ◆地域性や利用目的等があり難しい問題ではあるが、通院も含めて、利用者負担を増やすことしか手はないのでは。
- ◆事業の継続を望む。負担増は仕方ないが、使用量制限は目的に反すると考える。高齢者の健康増進のため、外出を促進すべきである。
- ◆高齢者にとって、とても有難い事業ですので、このまま継続することを希望します。「1人当たりの使用量を制限する方法」は今まで以上に更に制限すると理解すると。仕方ないと考えます。
- ◆所得制限が必要と考える。年間の冊数について、上限の設定が必要と考える。
- ◆この事業は、単に高齢者に対する経済援助ではなく、高齢者を大切にし、その活動を生きがいをもったものにするなど、市民意識の向上に繋がることに意義があると思います。もちろん、事業推進には予算（財源）が必要ですが、減額してでも続けるべきでしょう。
- ◆一日にバスは2本しかなく不便です
- ◆制限をすることは、外出の機会が減り、福祉計画には悪循環になると考えます。もっと利用しやすく、外出してお金を使うような取組みをされた方が、経済的にも良くなると感じます。
- ◆高齢者が気軽に外出できる。これが健康につながると思います。小樽を育ててきた高齢者を称賛する意味でも120円で続けていただきたい。
- ◆70歳以上でも自動車の運転に全く支障がない方は数多く存在しているので、バス券の代わりにガソリン代の支給を考えてはいかがか。年間わずかではあるが、バス利用者への補助金の平均額を支給することで、市民の平等感があるのではないか？
- ◆今までのやり方でよい。これ以上制限すると、高齢者は町へ出てこなくなる。

- ◆あったほうが良いことは変わらないが、事業と事業費のことを問題にするのなら市の事業の見直し洗い直しから、これをやめる、これは継続するという中で考えるべきこと。例えば、市議を半分にするとか？
- ◆高齢者でも高収入（公務員退職者、70歳超えでも働いてる天下り等）の人はたくさんいる。収入の一定以上の者については、完全打切りとすべき。
- ◆①利用者負担②使用量の制限などあってもいいんじゃないかと思います。
- ◆現在は利用してないが、今後も継続してほしい。
- ◆ふれあいパスは継続し、利用者負担増加はやむ得ないと思います。
- ◆①1人当たり、1ヶ月10枚以内と制限する必要があります（病院、その他） ②使用量を調査する
- ◆最も望ましいのは、市の事業費を増やすこと。それが無理ならば次善の策として、一定の回数までは現在のままに料金据え置き、それを超えるものは利用料の若干の値上げはやむを得ないと考えます。中央バスの減便が続いて、生活に不安を感じている（特に年寄りの通院に不便）
- ◆高齢化率の高い小樽市。高齢者の運転免許の返還や、高齢者の社会参加をより求めるため等にも、この事業の継続、拡充を求めたいところです。（私自身も、免許証の返還を考える年齢となっています）
- ◆継続するためには自己負担も仕方ないが、あまりに高額では困る
- ◆高齢者のメンバーに聞くと「小樽が好きだ」「仲間もいいなあ」とお互いに通じ合える「共感」みたいなものを持っているようです。それも家に閉じこもってないで、会えるチャンスがあるからと思う。幸い、小樽はバス一本でチャンスが叶う街だ！経済的なバランスもあるが、そんなチャンスをつぶすようにしてほしくない。この点を、これからも大事にしていきたい。
- ◆「小樽の発展」その歴史を巡る時欠かせないのが「バス」の存在だと思います。庶民の「足」として永年にわたり、小樽市の公共的移動交通手段としての役割には感謝するところです。現行の「ふれあいパス」これ以上、中央バス、小樽市に負担を掛けるのは？個人負担の「増」になるのは致し方なく思います。5年後考える時、人口減少明確で（75歳以上の人口比率も現在比べ相当減少と思われます）バス路線の縮小、廃線等も危惧されます。
- ◆利用したことが無いのでわからないが、利用者があるのであれば、予算のこともあるでしょうが、その範囲でやっていければ良いと思います。
- ◆1人当たりの使用量を制限する事
- ◆特に必要は無いと思います。自己負担で良いと思います。
- ◆高齢者にとって必要な事業です。利用者負担はやむを得ないと思います。今後とも、続けていく事業と思っています。
- ◆事業の継続をしてほしい
- ◆銭函、桂岡地区は、バスの便が悪く、日常的に利用できる環境にはありません。タクシーでも使えるような、割引パスなどを考えていただきたい。
- ◆小樽市の施策としては必要であることは理解しておりますが、当町会は全く制度の恩恵に与る事が出来ません。そうした地域をカバーするために、デマンドバスやコミュニティバス等を検討していただきたいと思います。

◆現状通りを希望

◆①高齢化が進み、運転免許の自主返納が増えている中で、高齢者の外出時の足（交通手段）の必要性が高まる②今後も、安く利用できる「ふれあいパス」発行を望みます

◆高齢者が外出する事を支援する「ふれあいパス」は、福祉的観点だけではなく、高齢者の生きがい支援、社会活動支援の観点からも事業の継続が必要です。事業費の議論は、市全体の財政状況の中の「一事業」として見るべきで、「ふれあいパス」単独の検討は恣意的な感じがします。

◆ボランティア活動、運動やスポーツ、文化活動、通院等々、外出の機会を増やし、健康や生きがい対策の重要な柱となっている。そのことにより、医療費の抑制効果があるほか、危険な高齢者ドライバーの免許返納促進の一助となっていると思います。したがって、継続してほしいと思いますので、バス会社が成り立つ範囲で、利用者負担が多少増加しても仕方ないと思います。

◆対象年齢でも「ふれあいパス」受けてない方もいます。身体が不自由で歩行が難しい人には、タクシー券も良いと思う。JR乗車券など、希望の種類の選択もあって良い。増加対象が多くなると、一人当たりの制限があっても仕方ない。

◆前市長時代に、市と定例連絡会議の機会に、高齢者の負担になるバス路線一乗車の負担、枚数制限は外出制限になるので反対した経緯はありましたが、現状では、一乗車負担及び枚数制限方法に反対はしません。

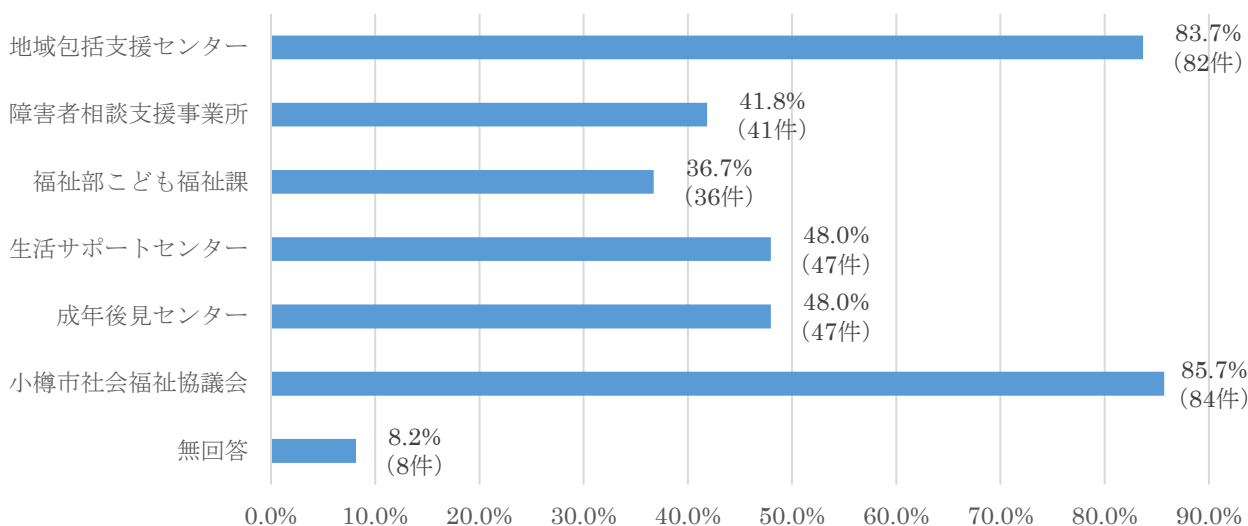
◆最近では、高齢者も早めに運転免許証を返納するようになってきています。返納後も元気な方も多くいらっしゃるのので、歩くことやバスでの活動が重要になっています。年金生活者にとっては大変助かっていますし、ふれあいパスをなくすると、なかなか車の運転を止められなくなるの方が問題だと思います。小樽は坂も多いし、冬は特に危険です。

◆今のままで良い

◆乗車料金の値上げが考えられるが、事業費の限界もあると思われるので、対象を75歳以上とし、使用量の制限をすべきであると思う。

問 13 小樽市の施策について（相談窓口を知っているか？）（当てはまるものすべて）

「小樽市社会福祉協議会」が85.7%と最も多く、次いで「地域包括支援センター」が83.7%となっている。

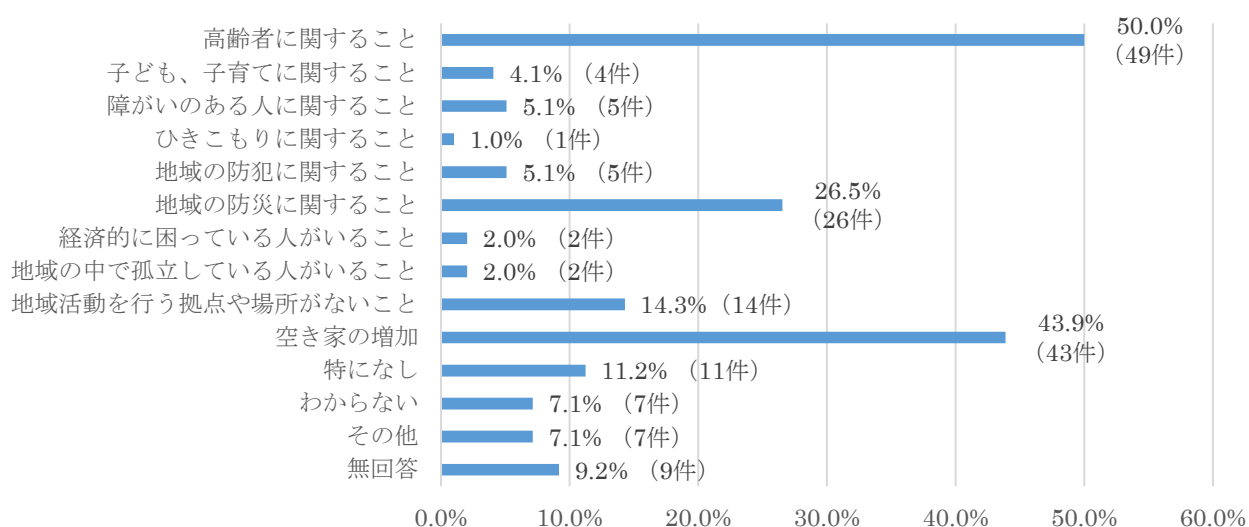


問 14 小樽市の施策について（相談窓口との連携で困ったこと） 【自由記載】

- 困った事現在まで無しです。
- 特にありません。その都度、助言いただきました。
- 福祉だけに的を絞っていて解決する問題ではない！役所全体で横断的人事、横のつながりが必要！
- 現在のところは、特段に困ったという相談はないと思われる。今後は、民生委員や関係団体とも連携を深めて行きたい。
- 当町会は、平成 15 年設立の「新興住宅地」で住民からの福祉的な相談は、他町会と比較で相談件数は非常に少なく、特に困ったことは発生していない。
- まだありません
- 相談を受けた事はありません（プライバシーの関係かも）
- 私はまず包括センターに話しを持って行き、そこから次に必要なところに。困った事は今までありません。
- 相談なし
- 町内会活動や老人クラブ活動にとって、活動の場所は大切な案件です。当町会は会館がないため、個人の家を借りたり、町内の施設（新日本海フェリー研修場）を借用してしのいでいます。
- 孤独死があり、家族も入れず空き家対策とかで大変でした。町内会で葬式（焼骨）をしました。町内会に押し付けでした。
- 縦割り行政をなくする
- 私は市の担当課に連絡します。
- 居住者を訪ねてきた方から長期不在の問い合わせがあり、地区民生と交番に連絡、病院に入院との情報があり、病院に問い合わせたが、個人情報観点で問い合わせに応じて貰えなかった。地区民生が包括支援センターに連絡して入院していることが確認されたが、個人、特に高齢者の安否確認に関わる情報を共有できるかが問題と思う。
- 介護認定をどのようにして受けられるか？
- 独居者の死亡事故なども経験し、高齢者との交流には力を注いでいるが全般的なものとはならず、日常的な相談ケースまでには至らない状況。社協や包括センターには、親切に対応いただいています。
- 相談があった場合は、社会福祉協議会等に連絡を取り、対処している。
- 住民は相談窓口の存在を知らない人も多く、住民同士での相談もあまりしていないように感じます。町会役員等にまず気兼ねなくあらゆる相談を出来る体制整備が必要と思います。

問 15 把握している地域課題（当てはまるもの3つ以内）

「高齢者に関すること」が50.0%と最も多く、次いで「空き家の増加」が43.9%となっている。



〈高齢者に関すること〉

- 独居高齢者の安否。
- 単身高齢者が、285世帯中101世帯です。除雪が最も心配です。
- 冬の除雪が当番制なので、除雪しなければならない。
- 老人クラブがなくなりました。高齢者にアプローチする予定がありません。個人情報保護の考え方がありますので、積極的に関わることはやめました。町内の高齢者の情報も入らなくなりました。悪法だと思っています。
- 高齢者の安否確認をどのように確認するか。緊急避難時の対応について。
- 高齢者が増えているが、その悩みを具体的に相談したり、対策したりする場がない。
- 独居の人が多くなりました。認知が出てくる人もいます。除雪、草刈りなどの参加ができなくなっています。
- 住民すべて高齢者。働き盛りの若者は来てもすぐ出ていく。
- 高齢者の増加と独居で、安全確認や今後の動向の把握、民生委員との連携、行政への協力が課題。
- 高齢者の更なる増加に対する対応。
- 野放し状態の飼猫や野良猫が多数いて、その糞のため家庭菜園ができない、臭いがひどいなどの苦情が多い。市保健所、後志局の協力に対応してもらっているので改善に向かっている。
- 75歳以上が50人も居り、先が心配です。
- 高齢者が増え、買い物等に不便を感じている、施設等に入る人が増え、空き家が目立つようになった。冬の屋根からの落雪の心配もあります。
- 山、坂が多い為、地域を離れる。高齢者が多いので、除雪に困っています。又、回覧も個別に配っている所もある。
- 単身高齢者が年々増加している

- ①市道の除排雪作業が年1回と、余りにもひどい。生活道路の貸出ダンプ利用のあり方？
- ②町会員の40%以上の高齢者をかかえて、町会行事の制限がある
- 除雪に困っております。
- 高齢化が進んでおり、日常の買い物などや、冬の除雪に困っている人もいます。隣近所の人の見守りや、お手伝い等で解決してもらっている。
- 独居住民の安否確認。
- 町会役員所帯の70%以上が80歳前後で、夫婦又は独居者となっており、役員のなり手がおらず、役員欠員のまま推移しており、数人が兼務している状況にある。事業や行事もこれ以上拡大出来ず停滞している。
- 独居高齢者や 病弱者世帯の者の屋根の雪降ろし、玄関周りの除排雪に困っている。
- 冬期、買い物に出かける時、除雪が（歩道）されていなくて歩けない。
- 单身や高齢者のみの世帯が多く、除雪に困っている。冬場、ゴミステーションまでのゴミ出しが困難なところが多い。
- ひとり暮らしの認知症的行動と安全。
- 高齢の除雪問題。業者との契約の推進を進めたい。
- 高齢者世帯や单身高齢者も増えてきている。除雪が大変になってきている。
- 高齢者が多く、歩道及び街路樹の除草ができなくなってきた。
- 高齢者が多い。

〈子ども・子育てに関すること〉

- 新一年生が年々減っている。
- 特に初めてのお子さんの場合、夫婦2人の時はなおさら相談する人が欲しいと思われる。人口増加のためにも大切な課題である。

〈障がいのある人に関すること〉

- 障がいのある人も、除雪をしなければならない。
- 障がいのある方の把握が町会にとっては難しい。個人情報ではあるが、民生委員からの個人情報の開示も考える必要があるのでは？
- 精神的な障がいと思うが、周囲にあらぬ言いがかりをつける。当人の勝手な思い込みに振りまわされているが、手の打ちようがない。

〈ひきこもりに関すること〉

- ひきこもりについては、家族もなかなか外に出したくないと考えてるケースが多い。町会としては、それまで踏み込む必要があるのかどうか？疑問だ。むしろ民生委員のmatterになるのでは？

〈地域の防犯に関すること〉

- 観光客が多いので、安心安全な町を保つこと。
- 近隣トラブル等、些細な事で警察等に通報したりすることによる心配がある。
- 泥棒が地区で発生しており不安である。

〈地域の防災に関すること〉

- 海が近いので津波対策。
- 災害時の救助。
- 防災組織はあるのですが、名前だけのものになっているので、しっかりとしたものにしていかなければならないと考えていますが、どの様にすればよいのか？困っています。
- 高齢化によって、防災対策に方策が見つからない。
- 当町内には高台地の林が多く、各地区での大雨による災害から考えても、土砂くずれなど不安がある。
- 当町会は2～14班の住民は標高40m前後の高台に住んでいるため、地震津波にはあまり心配していませんが、1班9戸の住民は海岸近くで生活しており、津波発生時の避難経路（徒歩）認知に心掛けているところです。
- 障害のある方の把握にも関連するが、避難マニュアルを作成して、救助隊への正確な情報を提供するには、個人情報の解除が必要であり、その辺の調整を市側に求める。
- 小樽は防災意識が低すぎる。
- 自主防災訓練組織を推進しているが、要介護者の把握が困難
- 山間地域のために、交通障害や火災等に備えが必要であると考えます。
- 急傾地が多く、がけ崩れが心配。町会に配布された、災害時避難連絡先一覧表に、指定されているはずの高校が入っていない（一番近いのが高校のため）
- 地震が発生した時、避難場所に行ったが開いていなかった（胆振地震の時）
- 道路が一本道なので、災害の時避難する経路がない。
- 地震発生時に起こりうる停電が心配？

〈経済的に困っている人がいること〉

- 町会員になっていない人（1人又は家族）もそれなりに多く、生活保護を受けている場合でも入会する人もいるが、特にゴミステーションの使い方、回覧板の扱い等支障があり、区長（地区担当者）が苦勞している。アパート等出入りもあり、住民の掌握が難しい面がある。

〈地域の中で孤立している人がいること〉

- 以前、区長が町内会費を集金に行った時に、急に町会を脱退しますので払いませんという方がいました。それでゴミ、街灯の件でしたが、ゴミの方は市の担当者が取りに来ていましたが、今はどうしているのかわからない。街灯は防犯上切ることができない。

〈地域活動を行う拠点や場所がないこと〉

- 地域活動を行う拠点や場所が必要である。
- 町内会館がないため、会長宅を利用している。
- 町内会館がなく、お寺の善意でお借りしているので、お互い遠慮がある。
- 旧堺小学校内に地域活動室はあるが、高所であり当町会では利用しづらい。
- 元々古い一般住宅地区であったため、町内会館設置は土地確保の予定がなく、同町内会の公共施設の一部を2ヶ月に一度借りて役員会を開催している。今後も町内会館設立の予定はなく、施設も常時使用しており、拠点場所が確保できない（老人のひきこもりが多い）
- 塩谷には、住民が気軽に集える場所がない。サービスセンターの移動に期待している

〈空き家の増加〉

- 空き家の前の除雪と屋根の落雪
- 防犯、防災等が不安です。他地域からの無断侵入、放火等が心配。
- 空き家は非常に多く、さらに古く壊れています。近所への影響も大です。
- 火災などの恐れ
- 現在120件の住宅の他、空き家が14~5件あり、特に1件は屋根が崩れ窓ガラスも割れている。今のところ、防犯上や火災等の心配はないが取り壊しを要する。
- 年に1軒くらいずつ空き家が増えている。
- 住民の高齢化に伴い、空き家が増加。放置されたままになっている。管理者不明。
- 転居、入院、入所等で空き家も増加。関係親族と連絡が取りにくい例も増えてきている。
- ①空き家の草、木がとなりのにのびる、窓がふさがる。②屋根の雪が落ちる。
- 空き家も増えている。
- 所有者の管理が不十分で雑草が生い茂り、藪蚊の発生で衛生上問題。建物の損壊等で破片が周辺に飛び散る危険。防犯上で特に問題あり。
- 空き家対策で、2年も経過している中で（町会として）何も解決されていない。担当者の異動もさることながら、土地所有者の追求の甘さと、建物所有者の高齢化が進んでいる。
- 空き家の増加で隣の家に損害を与えたり、火事が心配である
- 空き家の持ち主が不明で対応が難しい。防火、防犯で不安がある。
- 老人夫婦、独居老人が多く、雪の処理が自分たちで出来なくなった時点で転居（施設入居又は息子・娘宅の同居）となり、土地建物が売りに出ているが買い手が付かない状態で空家が増えている。
- 空き家の降雪が暖気時の落雪に、危険を感じ困っている
- 単身世帯の死亡後、入居予定なく解体後業者渡して空地や駐車場で町会世帯減少です。
- 家屋の屋根の雪降ろし。町民が通行する道路に面している場合、家主がしなければならないことになっているが、急を要する場合は市で雪降ろしをお願いしたい。

〈その他〉

- 人がいない。
- 高齢化が進み、若い担い手がない
- 町内で一番若い人の年齢 35
- 個人情報に秘密扱いになるので、何も解らない。
- 最近、班長を拒否する住民が増えてきて困っている。高齢や身体的な理由でなく、地域に対する責任感や連帯感の欠如なのか。
- 近年、集合住宅が増えてきて、アパートに住んでる方は町内会の加入もなく、住んでる方のことはほとんどわかりません。世帯構成もわからず、地域での支え合いは限界があると感じています。
- 新築の家が次々と建築され、空き地が無くなり、道路の雪を置く場所が無くなった。ゴミステーションの維持管理について費用を含め町会で行っている。しかし、町会未加入世帯の多くは「小樽市民としての当然の権利」としてゴミステーションを使用している。町会員からは当然のこととして不満の声が出ている。
- （冬季の除雪）国道の除雪で、早朝除雪された重い固い雪が通路に残る場合が時々あって、車の出し入れに苦勞することがある
- 強いて言えば、町会が行っている各行事の参加者が少ないこと。特に、災害時において自助に繋がるので、行事の機会あるごとに呼びかけている。
- 町内会員の実態を調べたことがない。75歳以上の方に、毎年敬老祝い金を贈呈していますが、それ以上の議論になりません。安心、安全なまちづくりは大事ですが、町内会としては昔のような長い付き合いもなく、個人情報の取得は難しい。
- 町会役員を引き受けてもらえる方がいない。役員を探すのに苦慮している。役員欠員の組の負担が多くなっている。

問 16 町会が地域生活課題への対応として行っている行事や活動 【自由記載】

今後町会として取り組みたい行事や活動 【自由記載】

【町会が地域生活課題への対応をして行っている行事や活動】

行事、活動名	対象や内容
町会総会・懇親会・ビール会	町会運営実体の周知。町会費の親睦。町会、法人、個人の親睦。
私の町会は 60 名で行事活動を行っています。令和元年から若い人方にも参加してもらえよう、アンケートを出してまとめているところです。	現状としては高齢化が進み、小・中・高校生が少なく、どうしても「敬老会、花見、パーク他」に縛られていますので、市民センターを利用して各町会が合流しての活動計画を立てています。

①小樽祭り ②町会レクリエーション（公園で） ③バス旅行	①色内なかよし公園で祭壇飾り 3日間 ②公園で焼肉・おでん等、150名位参加 ③日帰りバス旅行 40名位参加。
資源回収	1年間5回（4月.6月.8月.10月.12月）
①毎月4日町内月例会 ②毎月7日老人クラブ例会	①役員・各部組長出席で、報告・意見交換等 ②軽食などで楽しむ集会
茶話会・交流会	町内全員が参加でき、交流を深める目的です。
①公園草刈り・川の清掃 ②浜辺の清掃	①連合町会と合同 ②連合町会と長橋中学生徒合同
①道路清掃 ②焼肉交流会	①町会道路や、公園内のゴミ、落葉、草刈り ②去年より、30名参加
ゴミステーションの施錠化	カラス等が扉を開けて中のゴミを飛散しているの、その都度修理するようにしている。
もちつき大会	子供達、若人に伝えたい。老人にも元気を持ってもらいたい。
道路清掃	国道5号線の道路清掃と、街路植え花壇の草取り
（春）清掃活動、観楓親睦会、ラジオ体操など	町内会員全員を対象
	町内主要道路脇の除草、清掃。
幸りんごまつり	全町会員 2日間にわたり開催し、町会内外より、約8,000人の参加者があり、手作りの地域祭りになっている。
資源回収	4～10月の偶数月に実施
①日帰りレクリエーション ②焼肉親睦会	全世帯
パークゴルフ大会。高齢者との昼食会。丸山動物園見学バス。	町民全体に参加呼びかけしてます。独居者に対する呼びかけ。3世代交流として。
情報の回覧、サロン	
①資源物回収事業 ②避難通路草刈り、除雪 ③河川清掃	①毎月第4曜日 ②年2回程度、冬期間は随時行う ③年1回6～7月に実施
①資源回収 ②花いっぱい運動 ③年末のお餅つき	①各区や班の担当者 ②有志にて ③子供と高齢者
資源回収	町会役員及び協力者で十分である。
町内交流会	年1回小旅行、バーベキュー、パークゴルフ
懇親会（日帰）	町会員及び家族対象

総会、懇親会、レクレーション、清掃	住民及び事業者従業員、高齢者祝い
①レクレーション ②雪あかりの境内	①バス旅行、パークゴルフ大会、焼肉パーティー ②寺での雪像やキャンドル作り
もちつき大会、資源回収、盆踊り、祭り、お茶会等	高齢者と子ども、保護者等の交流、親睦、伝統の継承
体育の日の行事	どちらかというところ、お年寄り対象の種目を念頭に取組んできたが、これからは子供から高齢者まで、どの年代でも参加でき、楽しめる種目を考えて計画したい。
祭典（小樽みこし等）、イベント（焼肉パーティー、旅行会等）、廃品回収	減少しつつある
レクレーション（ジンギスカン、お祭り）	広く参加を募り、顔を合わせる場を提供している。年2回程度行っているが、参加者が決まっております、より広げていけるかは今後の課題と考えている。
町会遺産の発見、登録	近隣の町会、同じ意識を共有する団体と「朝里遺産の会」を立ち上げ、地域の町会に埋没されている文化遺産、自然遺産を掘りあげ、「町会遺産」として登録し、町民の「誇り」と「学ぶ楽しさ」を実感できるものとした。
独居高齢者住宅訪問事業、市民健康教室、町会員の健康診断	65歳以上の独居高齢者の安否確認
①敬老行事 ②高齢者お茶会 ③見守り訪問	①75歳以上を対象に祝う会 ②3会館で親睦交流と安否確認 ③要訪問を対象に見守り訪問（春、秋）
①水天宮まつり、子供みこし ②夏まつり、感謝祭 ③新年会	
川、海水浴場の清掃	川の清掃は、年を追うごとに苦労が増している。ゴミや雑草は年々増え、参加者の年齢が上がり危険も増している
①子供餅つき大会 ②敬老会、誕生会等	①子供と親 ②年寄り
①花見 ②食事会	①毎年40～50程度の参加 ②去年からはじめて40人ぐらいの参加
①水天宮例祭 ②友人会	①御輿渡御 ②親睦会

新年懇親会、盆踊り会、毎月の役員会、こどもみこし、敬老会、もちつき大会など。	地域（町内会）への意識の向上と理解の為、住民の交流活動に力を入れている。
新入学児童へのお祝い、敬老祝い、新年懇親会、ラジオ体操、給食サービス、ふれあいサロン、安心カードの実施、レクリエーション等	小さなお子さんから、父母、お年寄まで
市民健康教室	全会員対象（健康に過ごすために、必要な知識や安全に生活するための学習会）
①ラジオ体操 ②出前講座 ③独居宅訪問	①8月夏休みの10日間子供と大人の交流の場として ②日中年2回大人対象に実施 ③毎年8月に70歳以上の独居老人宅訪問し状況調査
「歳末防災子供巡回ともちつき大会」	小樽市消防署手宮出張所・消防団第一分団と少年消防クラブと子供会合同の歳末特例警戒町内巡回は少子化影響で中止する。もちつき大会は、「町民もちつき大会」に名称変更で実施
	町内会活動のPR、回覧が中心
①小樽祭、子供みこし ②ラジオ体操 ③夏まつり ④歩こう会と健康教室 ⑤子供お楽しみ会 ⑥その他 川の清掃、雪灯かりの路のキャンドルプレゼント	①幼児から中学生を対象に、みこしを担いで町内巡回（中学生は参加なし） ②夏休み期間中の15日間、全員を対象に毎朝実施 ③会館の内外を会場に、納涼ビアガーデンやヨーヨーつり、ビンゴやじゃんけん大会 ④周辺の散策路等、約2km歩いた後、軽体操の健康講座終了後昼食（ジンギスカン囲んで） ⑤新入学児童へ記念品、餅つき&ゲーム大会（中学生以下とそのご家族）
①子どもビンゴ大会 ②歩こう会	①子どもの楽しみとして、読み聞かせをして、ビンゴでプレゼントを用意（小学生以下） ②勝納川散策路を1時間ほど歩き、会館に戻り、ジンギスカンを囲む。
小樽祭等	通常は役員主体となるが、前後の交流の場を作り、その都度、若い方を誘い入って頂き、奉仕者減を守りたい。
①ゴミステーションの清掃 ②資源回収	①週毎に当番制でおねがいしている ②年4回回覧等で参加をお願いしている
①敬老会、運動会 ②焼肉パーティー	①9月 70歳以上の方々に餅を配布 ②6月

【今後町会として取り組みたい行事や活動】

銭函地域全体の年齢層分けての活動。1.健康教室 2.料理教室 3.就活 4.他	専門分野の教師などを招いて行う。
町会として考える	
防災訓練・避難訓練	全世代対象に取り組んでみたい。
避難場所の確保	高齢者が多いので、近くの山に道路を作って、安全に避難出来るようにしたい。
令和5年に町会設立50周年となるため、記念事業を検討している。	1.記念誌の発行 2.青少年「育み事業」 3.広報誌の発行 4.その他
「地域活動を行う拠点施設」建設を検討中	町会事業円滑に実施のための拠点施設の建設
雑草刈、町内清掃	町内の主道路など
高齢者への声かけ、見廻り	
町内美化活動	バス通りに面しているので、花壇などの整備していきたい
親睦会	なかなか集まりが悪く、参加する人も同じ人ばかりなので少し考えたいと思っている。
グリーンロードの美化活動	「桜の会」や「愛護会」等、会員の限られた人員で通年行っているが、地域でより協同して盛り上げたい。
町内美化活動	車道、歩道の縁石の雑草除去。私有地から歩道にはみ出している雑草の除去。
町会広報手段の充実	現在、町会の広報手段は回覧板という従来からの方法に頼っているが、今回のコロナ禍の状況や迅速性を見る時、電子媒体の充実も考える時機ではないかと考えます。
サロンのカフェ	明るい場所。ホールを考えますと、実際には難しいと思っています。
自然災害に対する避難訓練、またはその類の講習	未経験な部分で、すぐ実施する方策が見つからない。講習会の必要を感じます。
	活動を増やし過ぎると、役員のなり手がなくなる。
現在取り組んでいることを、前進させていく	全会員に町内会の現状を理解してもらい、町内会活動の活性化を図る。
	隣同士が声を掛け合う習慣を徹底する事を呼び掛ける事
①賑やかサロン ②青少年集いの場	①老人同士の話し合いの場（孤独感を解消する） ②小中学生同士が交流し、地域・町内の事など意見交換
災害時の避難体制確立	災害時の弱者である高齢者の避難支援組織化
新入学児童祝い金	新一年生へ図書券を贈る。回覧をまわして申請してもらう。
高齢者サロンや介護予防教室	会場やボランティア確保がネック

地域支え合いマップ	近隣の住民同士の協力を進める。支え合い、グループを作りたい。
カラオケ交流	従来から実施しているが、機械古く扱いづらいため、新機種要望あり検討中
親睦会	年一回パークゴルフと温泉。婦人部主催でランチ会（中高年者多い）

問 17 地域福祉を推進する上で必要なこと 【自由記載】

★マンション住民はほとんどが町会に入りません。町会に入らないからといって、そこだけ防犯対策から外せません。例えば、失火見廻り、街灯の点灯等は町会負担で行っております。その様な非加入者対策が必要です。

★空家、空地が増えたり、アパートが増えると地域活動ができない。

★高齢化、人口減の急速な進展により、町会収入の減も着実に進んでいる。町会会計を赤字にしないようにしながら、町会を維持するのが大変です。回覧板ですら回り終るまでの時間が長くかかる地区も沢山で、ネガティブにならざるを得ないです。根本的に助けて頂きたい。

★やはり地域福祉とのコミュニケーションがあります。今のような問題についてアンケートを調査するのではなく、年に1~2回程度話をすることが大事であります。その辺が役所の足りない点ではないでしょうか。まだ遅くありません。「コロナウィルス」が落ち着いたら会合でも開いてはと思います。

★色内中央町会なかよし公園は住民が増し、マンション等で子供達がたくさん、いつも遊んでいる。遊具も少し増やしてはいかがでしょうか。またトイレがなくて、公園近所より色々クレームがでています。

★空き家の増加について 空き家の調査書に記入して提出してありますが、これからも高齢者が増加し空き家も増加する。いつまでも放置もできません。解体助成金をアップして環境整備のために解体を促進して下さいお願いいたします。

★高齢者1人生活について 5月末に1人暮らし（70代）が3日前から照明がつき放し、新聞が入ったままでの状態を区長が発見し、直に町会長に連絡あり、現場確認。銭函交番通報、救急車手配し、病院に入院中。近所それぞれに見回り、声かけ運動が必要である。

★各担当機関の横の連絡の充実。

★災害発生時の1人住まいの高齢者を避難させることをお互い協力したい。

★民生委員との連携を密にしていきたいと考えていますが、民生委員には守秘義務があり、いろいろ難しい面が多いです。独居老人宅、生活の支援が必要なお宅等、町会ではなかなか知ることができない。

★当町会は、民生委員も不足しています。単身一人世帯が3分の1以上と非常に多く、その方々が入院や施設入居がわかりにくいです。町内会費がもらえない等、後10年後ははたして何世帯になるのかと不安です。年齢が高い事も有り、自分の身でせいっぱいの感があります。後見人は、地域と結びつく必要があります。個人情報がありますが、共助に情報は必要です。警察の世帯調査も3年に1回くらいでしょうか。民生委員は2年間来ていません。

★福祉の問題は幅広く、深いもので、市の施策全てに関係するものと思われる。息長く、頻繁に住民対話を続けたいかがでしょうか（市の考え（方針）、住民の考え（希望）等がお互いに見える）現在は市とか、住民代表者等の独り歩きの感がある。策定委員会での概要を町会長に配布したら理解が深まる。

★各戸の個人情報をどこまで把握していればいいのか、最低基準を示していただきたい。火災等があった場合、誰が住んでいるのかわからないのでは話にならないと思う。個人情報をどこまで把握しておけばいいのか、基準を示していただきたい。もしくは、そんなことはしなくてよいというなら、それはそれでいいとは思いますが。

★小樽市中心部への集約化（人口増加策）

★地域コミュニティーの守り手としての町会活動や、居住者が福祉と環境と安心が実感出来る街づくりをするためには、その運動を支える役員や手伝い人が絶対的に必要なことである。しかし、近年はその役員の担い手が少なくなっている現状である。そのことは、町内自治が失われてしまうおそれが多いと思われまます。したがって、小樽市の職員の一人一人が、自分の居住する町会に対して大いなる関心を持ち、役員を手伝うとか、せめて行事の時は参加するなどの協力が必要ではないかと思っている。

★地域福祉計画は、当市にとって初めての事業と思われ、大変と思われまますが市民に期待される計画作成を祈念しております。

★生活困難な方への対策。高齢者支援。

★行政と住民の距離が遠いと感じる

★町会長としてではなく、個人的に町内の清掃（ゴミ拾い、草取り、砂の収集）をしており、きれいな街で心の美化を願っております。

★市からの情報提供。町会に防火防災等への権限。

★高齢者の1人暮らしへの訪問活動が重要と考える。

★町内の構成が、ほとんど団塊世代以上のため、高齢化が進む中、どう交流を深め助けあうシステムを構築していくか課題

★町会役員平均年齢72歳と、町会の目的の福祉と交流のうち、交流事業を行うことで福祉については最低限のことで終わっています。

★一番望むことは、住民の人数、氏名、年齢等を知りたい。個人情報保護により、住民を把握できない。訪ねても不在を装い出てこない。

★町内において、子供達がボールや自転車等で遊べる場所がほしい。

★町会役員のなり手が不足。現職の若者がいないわけではないが、地域福祉に関して意識が低く、楽しみとして子ども中心に参加する行事もあるが、奉仕活動への参加を促したい。伝統的な大切にしている行事もあるが、市の職員を含め、町会毎の盛り上がりを工夫していきたい。

★市長を先頭に行政に関わっている方々が、小樽市に住む者達、特に子供達や高齢者、そして障がい者が明日へ希望を持ち、毎日が意義のある楽しい暮らしを望んでいることを心からしっかり受け止めて、市政を進めていくことが、第一に大切なことと考えています。

★小樽市の高齢者対策は、行政、民間を含めて100%までではないが、かなり活発だなと感じている。しかし、子育て世代の支援は、保健所など少数の機関が目につく位で低調な感じがする。小樽市の人口問題の観点からも、子育て世代の支援をもっと充実させるべきだと思う。医療費など経済的な面だけではなく、子育ての悩みに寄り添う施策が不足ではないか。

★空き家対策、所有権はどこに？

★相談があった時のレスポンスのスピード

★現代の社会状況（特に経済的弱者）を考える時、その個々の人の状況は様々であり、町会長として分け入る部分があるのか、何が出来るのかは甚だ疑問である。町会には何が出来るのか？どこまでやったらいいのか？このところを考えると、市役所福祉部との連絡を密にし、町会からの情報の提供もさることながら、福祉部からのさらなる情報の提供、アドバイスを充実させることが肝要だと思われます。

★スマホやパソコンの画面を見るだけで、すべて分かってしまうと考えるのではなく、顔と顔を見合って語ることを大切にしたい。会館の部屋を広く使う、場の工夫をさらに進めたい。総連合町会を通して、各町会の活動を参考にしたい。

★会計は担当する人がもう10年以上変わりがありません。先般、町内会を解散した町会があると聞いておりますが、防犯街路灯の電気代など、町内会が解散してもお金の管理は必要で、その後どうなったのか情報提供をお願いします。会計を担当する人がいれば、今後の町会の維持は可能です。

★街路灯LED化の推進は100%終了し、市の助成金を使い、ありがたい事業で住民も喜んでいいる。

★堺町通り周辺、水天宮、駅前周辺の公衆トイレの改善

★小樽駅前、南小樽駅、花植込み希望

★1.トンネル残土の問題（新幹線用） 2.高速道路工事 3.一般国道5号線のトンネル工事 4.太陽光発電所建設 5.公共施設の統廃合問題 6.市営住宅の統廃合 7.コンビニの閉店と再開 と多くの問題が次々と起こり、住民の精神生活（心の問題）に気を配る時間がもてない。合わせて、これら「生活アンケート」が数多く求められ困惑している。

★当町会では区長制で、町内会費を集金していますが、輪番制と一人でやっている人と二通りがありますが、一人でやっている場合後継者がいません。説得しても、なかなか良い返事がありません。困っています。

★児童通学路が安全に登下校出来るように、通学路変更について。手宮公園内を通過して、厩会館に通じる道路は除外されました。よってバス通り成りに厩町会より手宮側右側道路に成りましたが、雑草は6月末頃刈り取りましたが、頭上に木の枝がたれさがって（危険）晴天の時は良いのですが、雨が降って傘をさした時のことも考えて下さい。一般住民の方も通ります。

（ゼブラ）車も通って見ていると思います。今一度現場確認お願い致します。

★昨年、町内会長になったばかりで、役員の方々に助けをもらいながら活動してきましたが、特にあまりありません。

★市の職員としての町会への手伝い（役員）ではなくて、町民の立場としての手伝いをしてほしい。

★市が取り組んでいる施策の広報活動（内容が良く分からない）

- ★銭函、桂岡地区は、小樽市内とは離れているので、地域的に取り残されている感があります。銭函、桂岡地区の相談窓口の充実をしてほしい。
- ★市内のどの地域からも移動できる交通機関の整備が必要と考えます。
- ★小樽市の人口減少に伴い、町会員の減少も続いている。それにより、街路防犯灯電気料の一世帯当たりの負担が、LED化で一息ついたものの、大きくなってきていて、町会費引き上げの要因となる。また、空き家や長期入院等で、家の前の除雪でつながっていた道路がなくなってきたりしている。助け合いが強まる場所もあるが、ほとんど薄くならざるを得ない。したがって、特效薬はないと思うが、人口減少への対策を怠りなく続けてほしい。
- ★町会役員不足のため、地域在住の市役所職員やOBの方の積極的な協力をいただきたい。マンションの町会加入がなく、地域への協力を求めたいが、方法が難しい。札幌などでは、家賃と共に請求され、町会に入金されている。町会会館の利用がなく、活動資金不足。古くなってきた会館の、維持管理が負担増している。
- ★市主催の行事等に、各町会老人クラブ等へ呼びかけ、参加していただき、高齢者の外出機会を増やすなどいかがでしょうか。
- ★「災害対策について」災害が発生した場合、周知や避難誘導のための事前計画が必要ですが、その前に町民の状況を把握しておかなければならない。特に独居の高齢の方々の状況を知りたいが、個人情報保護の関係で難しいとされるが、町会として、どこまで知り得る事が出来るのか知りたい。民生委員の方は、どの程度把握されておられるのか、又、その情報をどの程度知らせて頂けるものなのか知りたい。